

定年退職後 「じじい部隊」立ち上げ 町内見回り

すずき ひさとも
鈴木 久友

元大熊町役場 総務課長、元「じじい部隊」

昭和 27 年（1952）、大熊町生まれ。
双葉高校、東京農業大学を卒業後、大熊町役場に入庁。東日本大震災では
総務課長として避難対応にあたる。定年退職後の 2013 年から、一部で避難指示が
解除される 2019 年まで「じじい部隊」として住民避難の町を守ってきた。

震災の時は大熊町の総務課長でした。
大変な混乱の中、直ちに災害対策本部を設置、地震と津波被害の対応に奔走しました。
そこに、原発事故が起き事態は一変。
翌朝には全町避難が決定、急ぎ住民台帳を用意したことが思い出されます。
その後は、田村、郡山、会津若松と転々としながら避難指揮の日々。
町民の皆さんは県の内外へバラバラになってしまいました。
あの時は本当につらかったですね。私は家族とともに郡山に落ち着きましたが、
故郷大熊町を思う気持ちは日増しに強くなり、定年退職したら住民のいない
町の見回りをしようと、信頼する同世代の仲間に声をかけ、自称「じじい部隊」を
立ち上げました。防護服に身を包んでの防犯パトロール、先のある若い職員に
リスクを負わせたくないという思いもありました。パトロールを任命された 6 年間、
6 人の「じじい」が交代で町内の巡回、倒木の除去や掃除、一時立ち入りした
町民の手助けもしました。不審者に遭遇した時はさすがに驚きました。
町民の皆さんが私たちを見かけると安心してね、ねぎらいの言葉を
かけてくれました。とても嬉しかった。今後は故郷の土地が未来へ受け継がれるよう、
廃炉を見届けるまで？元気で長生きしたい！と思います。



「じじい部隊」の鈴木さん（左）と杉内さん。一日の仕事を
終えて【2019 年 3 月 11 日付福島民報掲載写真】